



営農NEWS



ハクサイ茎葉に発生する主な病害の薬剤防除

本年は、8月下旬～9月上旬にかけては、梅雨明け後の高温も治まり、適度な降雨もあって、秋冬ハクサイ栽培での圃場づくりや定植などには適した年となりました。しかし、気象1カ月予報(9月18日発表)によりますと、今後とも「天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多い見込みです。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です」と予想されており、今後はハクサイの軟腐病をはじめ、黒斑細菌病、白斑病、べと病、黒斑病など茎葉病害の発生しやすい圃場環境となる恐れがありますので、十分な注意が必要となります。

<各病害発生の特徴と対策>

- 1 軟腐病は、強い降雨や風、台風などで葉柄等に傷ができたり、虫の食害痕、管理作業のときの傷口等から感染しやすく、多湿でやや高温気味のときに発病伸展します。これら条件のときには、予防的に薬剤散布を行います。
- 2 黒斑細菌病は、やや低温で降雨が多いときに発病伸展しやすい傾向がありますので、予防散布に努めてください。
- 3 べと病や白斑病は、結球開始前にも発病しますが、主には結球期以降にやや低温で多湿条件が続くと発病伸展しますので、予防散布を行います。これら病害は、前作で多発生した圃場に連作すると、発生しやすい傾向がありますので注意が必要です。
- 4 黒斑病は、主として生育後半に発生しやすい傾向があります。肥切れしてくる頃に降雨が続くと発生しやすいので、予防に努めてください。
- 5 ウイルス病株が発生したら、早期に除去して土中に埋めるなど適切に処分し、アブラムシの防除を行います。

<防除のポイント>

- 1 軟腐病や黒斑細菌病など細菌による病害には、発生の好適条件が続いたら必ず無機銅（Zボルドーなど）剤や有機銅（キノンドーなど）剤などを予防散布し、その後は合成抗細菌剤の有効成分オキシニック酸（スターナ）又はその混合（カセットなど）剤、抗生物質（アグリマイシンなど）やその混合（アタッキンなど）剤などで防除しましょう。なお、抗生物質剤は高温時に使用すると、薬害を生じる恐れがありますので注意してください。
- 2 カビの病害では、病原菌の種類により有効薬剤が異なります。白斑病、べと病、黒斑病などには、予防的にジマンダイセン水和剤、ダコニール1000、オーソサイド水和剤80など多種類の病害に登録のある薬剤を散布することにより予防ができます。
その後、白斑病にはロブラール水和剤、トップジンM水和剤などを、べと病にはランマンフロアブル、ホライズンドライフロアブルなどを散布します。
- 3 農薬の散布にあたっては、株元まで十分に薬液がかかるよう株全体に丁寧に散布してください。なお、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、ローテーション散布してください。

表1 ハクサイ主要病害の主な防除薬剤（平成26年9月24日現在）

薬剤名	軟腐病	黒斑細菌病	白斑病	べと病	黒斑病	希釈倍率	使用時期/使用回数
ダコニール1000			○	○	○	1,000倍	収穫7日前まで/2回以内
ジマンダイセン水和剤			○	○	○	600倍	収穫30日前まで/1回
オーソサイド水和剤80			○		○	600~1,200倍	収穫7日前まで/5回以内
ストロビーフロアブル			○	○	○	600倍	
プロポーズ顆粒水和剤			○	○	○	3,000倍	収穫3日前まで/3回以内
ランマンフロアブル				○		1,000倍	収穫7日前まで/2回以内
ホライズンドライフロアブル				○		2,000倍	収穫3日前まで/4回以内
ロブラール水和剤			○		○	2,500~5,000倍	収穫14日前まで/3回以内
トップジンM水和剤			○			1,000~1,500倍	収穫14日前まで/3回以内
アグリマイシン100	○					1,500倍	収穫7日前まで/2回以内
アタッキン水和剤	○		○			1,500~3,000倍	収穫14日前まで/3回以内
カセット水和剤	○	○				1,000倍	収穫14日前まで/2回以内
スターナ水和剤	○	○				1,000倍	収穫21日前まで/2回以内
ナレート水和剤	○					1,000倍	収穫7日前まで/3回以内
			○	○	○	600~1,000倍	収穫30日前まで/3回以内
キノンドーフロアブル	○					800倍	
Zボルドー	○	○		○		1,000倍	収穫30日前まで/5回以内
	○					500倍	—

農薬を使用する際は、ラベルに記載の登録内容、使用法、注意事項などを確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040